

## 研究区分：予防に関する研究

# 消防隊員の心的ストレス状況把握と神仏習合による 心的ケアに向けた連携ネットワーク構築に関する研究

諫山 憲司

救急救命学講座 救急救命学ユニット

### 【目的】

我が国は、自然災害大国であるため、公安職や災害医療関係者は、発災直後から慢性期にかけ、被災者の心身ケアを最優先することが責務となる。しかし、被災者を最優先するが故に、消防官や警察官、自衛隊員などの災害時に職業的に人を支援する災害救助者の心的ケア（スピリチュアルケア）が、なおざりになってきたことは否めない。一方、欧米では、病院などの医療・介護施設やホスピスにおいて、患者・家族・スタッフの精神的・宗教的、スピリチュアルなケアをするためのチャプレンが採用されている。そのなかでも消防チャプレンは、災害援助や救急救命に関与し、緊急的な臨床現場において、遺族や消防隊員のグリーフケアだけでなく、現場の空間を癒す役割も担っている。しかし、我が国に消防チャプレンは存在しておらず、死生に関連する臨床現場の心的ケアは手つかずである。そこで、『日本版消防チャプレン実現に向けたニーズ調査ー消防署（消防隊員）を中心にー』をテーマに第22回（2021年度）日本死の臨床研究会の研究助成を受け、調査研究を実施した。この研究から、死生に関連する緊急的な臨床現場における心的ケアの必要性について、消防隊員の約90%が、心的ケアの必要性が「ある」との回答をえた。また、ヒアリング調査から、心的ストレス同様、あるいはそれ以上に日常の消防業務における職場内での人間関係を含めたストレスの大きいことが明らかとなった。消防活動において、隊員は多くの「死」を目の当たりにする。それは業務であるがゆえに「処理して次に進む」という流れに乗る必要があり、隊員の心に残る「死生への悩みや迷い」を持ち続け心の疲弊が蓄積されることになる。

本研究では、消防隊員を含む災害救援者を対象に、

仏教者や神職者など、傾聴のトレーニングを受けたものが、ストレスケア・メンタルヘルスケア（傾聴）をすることで、日常におけるストレス軽減が図られるだけでなく、持続的な心的ケア（介入）に向けたネットワークを構築することを目的とする。

### 【方法】

本研究では、災害救援者の日常業務におけるストレス対策を調査し、被験者へのストレス軽減対策の介入を行い、ストレス軽減を試みた。

質問紙調査票を用いた匿名でのアンケート調査を実施した。厚生労働省推奨の「労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト」、個人属性、調査段階でのストレス度合と傾聴後のストレス軽減度合いについてビジュアルアナログスケール（VAS）を活用し、調査票を作成し、調査・研究を行った。

対象者は今後の研究の発展・拡大を考慮し、消防隊員だけでなく、災害救援者として医療介護職員、行政職員、社会福祉協議会やNPOのスタッフなど、本研究や消防に関連する者を含めた。

#### 〔ケア介入と効果の評価〕

・対象者へのケア介入前後でのストレス反応の評価・分析

（介入前）：①職業性ストレス簡易調査票（57項目）を用い、ストレスの現状を把握 ②VASを用い、介入前の現状を測定

（介入後）：②VASと同じ評価表を設定しストレスを測定し、効果を評価・分析する。

#### 〔心的ケアに向けた連携ネットワーク構築〕

次の1)～5)の研究者・協働者とストレス軽減対

策について協議した。スピリチュアルケア、神仏習合による心的ケアの可能性や連携ネットワーク構築の実現性について協議した。1) 地域関係機関 2) 医療福祉施設 3) 大学機関 4) 消防機関。

## 【結果】

6名の対象者（災害救援者、図1）への傾聴前後で、VASの平均5.0cm（傾聴前）から2.3cm（後）と、ストレス軽減（2.7cm）の効果が示唆された（図2）。

【結果】														
No.	疲労度判定	居住地	性別	年齢	職業	たばこ	睡眠時間	運動習慣	朝食	朝食	飲酒	VAS前	VAS後	VASの差
1 A	2	京都	男	30-39	社協	すわない	6-7h	ある	とる	する	する	5.1	4.2	0.9
2 B	4	京都	女	40-49	社協	すわない	5-6h	ない	どちらでもない	する	しない	6.4	3.2	3.2
3 D	0	京都	女	30-39	NPO	すわない	6-7h	ない	とる	する	しない	6.1	0.7	5.4
4 E	0	京都	女	40-49	NPO	すわない	7-8h	ない	とらない	しない	する	3.4	1.5	1.9
5 H	2	兵庫	男	30-39	消防隊員	すわない	5-6h	ある	どちらでもない	する	する	2.4	1	1.4
6 I	1	その他	男	40-49	消防隊員	すわない	4-5h	ある	どちらでもない	どちらでもない	する	6.9	3.5	3.4
												5.1	2.4	2.7

図1 対象者の属性とVAS値

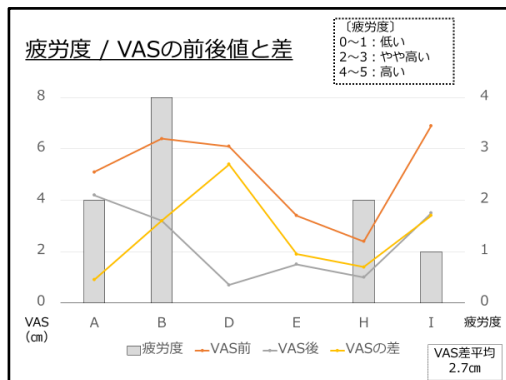


図2 疲労度とVAS値（傾聴前後）

また、本研究過程で様々な関係機関（者）と連携が図れ、ネットワーク構築に向けての基盤作りができた（図3）。

## 【考察】

VAS値がある程度（平均で2.7cm）減少したことから、ケア（傾聴）介入によるストレス軽減効果が示唆された。今後、対象者数を増やし、より適切な指標活用やデータ集積により、日常から災害救援者

の心的ケアが行われる連携ネットワークの構築を進める。

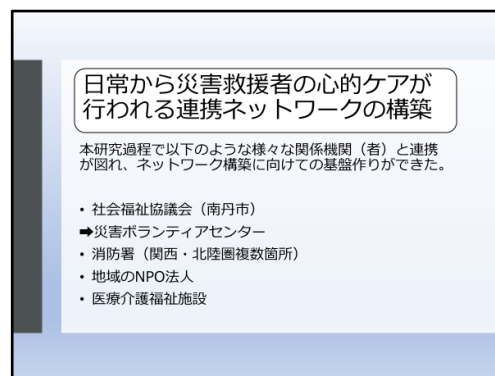


図3 心的ケア連携ネットワーク

1995年の阪神・淡路大震災以降、災害救援者が活動中に被る惨事ストレス（凄惨な災害現場等で受ける強い精神的ショック）への関心が高まり、総務省消防庁緊急時メンタルサポートチームの2003年創設後、惨事ストレス対策が実践されている（派遣実績74回、2019）。また、2005年のJR福知山線列車事故を契機に、2006年にDMORT（災害死亡者家族支援チーム）が発足されるなど、様々なメンタルヘルスケア・サポートシステム、ピアサポートシステムが浸透・広がりつつある。

欧米の消防チャプレンは、緊急現場での消防隊員を支援（心的ケア）するため、消防の業務内容を知る目的に、養成過程において、消防隊員同様に、消防戦術や救急・救助対応などの厳しい実務訓練を行う。しかし、日本における災害救援者の心的ケアは、欧米のシステムと比較し系統立てて組織化されておらず、署内での研修や自己研鑽に留まっており、未だ十分とは言えない。新型コロナウイルスの影響が長引くなか、多死社会における災害現場での判断と対応など、災害救援者のストレスは、増大するばかりで危機的な状況である。

## 【今後の展望】

現在のメンタルサポートチームは、発災数日後（派遣）の心的ケアや事前研修に留まり、消防チャプレンのように即時・客観的な臨床現場での心的ケアに

は至っていない。今後、日本において、心的外傷を受ける前の早い段階での支援をするためには、消防チャプレンのような即時・客観的な対応を進める必要があると考える。そのためには、消防チャプレン同様に消防の業務内容自体を熟知する必要があり、誰がどのようなタイミングで介入（サポート）するのが効果的かなど、いくつかの課題が考えられるため、一つ一つ課題を乗り越えていく必要がある。

### 【本研究の限界と課題】

本研究は傾聴を訓練した神職者と共に研究を行ったが、対象者数が少なく（ $n=3$ ）、VAS 値の前後差は約 2 cmであった。対象者の属性や傾聴者のバックグラウンドも違いが大きいため、結果に入れず比較も行わなかった。今後、神仏習合によるストレス軽減について精査を続ける計画である。

### 【結語】

ケア（傾聴）介入によるストレス軽減効果が示唆された。今後、対象者数を増やし、より適切な指標活用やデータ集積により、日常から災害救援者の心的ケアが行われる連携ネットワークの構築を進める。

### 【論文及び学会発表】

1. 諫山憲司：消防職員の惨事ストレス。第 35 回日本保健福祉学会学術集会，シンポジウム・ワークショップ パネル（指名），コメンテーター。2022. 10. 1.
2. 諫山 憲司，小谷 穰治：日本版消防チャプレン実現に向けたニーズ調査ー消防署（消防隊員）を中心にー。第 46 回 日本死の臨床研究会年次大会，三重，2022. 11. 26.

### 【文 献】

1. 小西達也：アメリカで「仏教的スピリチュアルケア」を考える。谷山洋三 編。仏教とスピリチュアルケア。東方出版；2008：38-39.
2. 谷山洋三：震災と慰霊。似田貝香門，吉原直樹編。震災と市民 2（支援とケア）。東京大学出版

会；2015: 197-214.

3. 谷山洋三：スピリチュアルケアの担い手としての宗教者。鎌田東二 編。講座スピリチュアル学第 1 巻 スピリチュアルケア。ビーイング・ネット・プレス；2014: 125-143.
4. 古村文伸：見学では分からない海外事情 米国の病院でのチャプレンの実習ー仏教修行として。緩和ケア。青海社 2016; 26 (3): 232-234.
5. Tunks Leach K, Simpson P, Lewis J, et al. The Role and Value of Chaplains in the Ambulance Service: Paramedic Perspectives. J Relig Health 2022; 61(2): 929-947.
6. 山田泰行，長須美和子，原知之，他。東日本大震災の被災地で災害対応と復興支援にあたる自治体職員の心理的ストレスー震災後 1 年目に実施したメンタルヘルス調査の結果からー。労働科学 2017; 93(3)：80-94.
7. 総務省消防庁消防・救急科。緊急時メンタルサポートチームについて。消防の動き '19 12 月号；2019：7-10.
8. 松井豊：惨事ストレスとは何か 救援者の心を守るために。河出書房新社。2019.

謝 辞：本研究は明治国際医療大学学内研究助成を受けたものです。